

●世相

○57

祈雄飛 (H22/3/28作)

(平起式 押韻は、平声五「微」である。)

先般、卒業以来初めて、母校防大の卒業式に参列した。第五十四期生の卒業である。おりしも走水小原台上にも春が訪れつつあった。凜々しい彼等の勇姿に接し、己の往時に思いを馳せつつ彼等に幸多かれと祈らざるを得ない。

走水爽気草芳菲
凜々張胸眼爛輝
任重前途逢苦難
強懷大志且雄飛

○49

如何内憂外患 (H19/12/31作)

(平起式、押韻は、下平声八「庚」である。)

この一年防衛次官の件、年金に関連した社保庁や市町村職員の汚職、政治家の相変わらずの塗れ振り食品等偽装の氾濫、外にあっては北朝鮮の暴虐や日中間の資源等に係わる問題が顕在化し、内憂外患の年で在りました。一体この国はどうなるのでしょうか。暗澹たる気になるのは小生のみでしょうか、来年こそはと期待しましょう。

塗汚濫偽向途盲
北恣日支東海争
誰对艱難意社稷
戊年国運願隆盛

○46

「斬汚吏」(H19/9/7作)

(仄起式、押韻は下平声「先」である。)

社会保険庁の墮落振りは恐るべしですね。それに加えて市町村レベルにおいても国民の年金保険料をくすねていた者が居たと報道されています。汚吏というべき者の余りもの多さに呆れ返ってしまいます。公僕は昔から清きものと決まって居たはずなのに、何故こうなってしまったのでしょうか。昔のように清き官僚役人の復活は出来ないのでしょうか？

汚吏頻々盗血錢
怒興勃勃髮衝天
聰清公僕消何処
復信無途独暗然

○30

「憂世相」(H17/8/13作)

(仄起式、押韻は、下平声二蕭である。)

読み違いによる解散なのかどうか、私怨や個人的な思惑が渦巻いた中での国家を見失った政治家に失望している。日本はどうなるのか、郵政も大事だがそれだけではあるまい。

渦怨謗噴堂外燒
内憂患襲衆心揺
保身社稷些無慮
波弄舵回国自漂

先輩苦節六十正装(五十一/6/28作)

(平起式 押韻は、上平声十三「元」である。)

前の大戦が終わって六十年、日本は廢墟の中から不死鳥の如くに甦りましたが、日本人或いは民族としての矜持を何処かに忘れてきたのではないでしようか。何時魂の復権があるのでしょうか。

而 荒 民 心 自 無 言
盡 化 廢 墟 途 迴 昏
五 紀 雄 甦 如 火 鳥
唯 々 焦 願 再 興 魂